

関内駅周辺地区

AREA CONCEPT PLAN

関内駅周辺地区
エリアコンセプトプラン



関内駅周辺地区エリアコンセプトプランとは

関内駅周辺地区は、開港以来、横浜の発展をけん引してきた関内・関外地区の中心であり、横浜の顔として長年にわたり市民に親しまれてきた地区です。

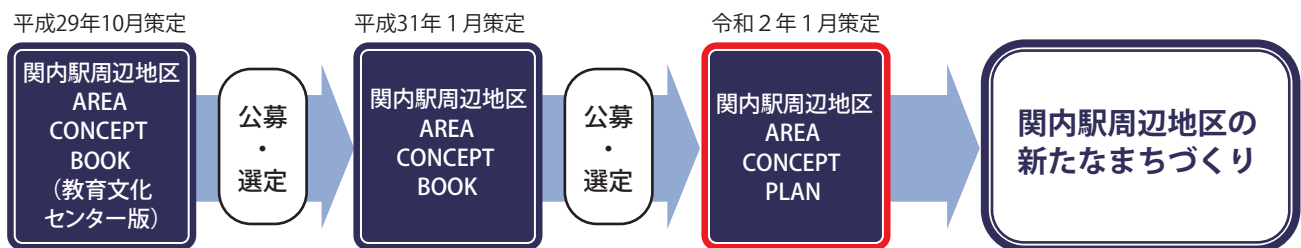
令和2年6月の市庁舎移転を契機とした関内駅周辺地区の新しいまちづくりは、関内・関外地区をはじめとした今後の都心臨海部全体にとって非常に重要なものとなります。

そのため、横浜市では、平成31年1月、関内駅周辺地区の新たなまちづくりの方向性を示した「関内駅周辺地区エリアコンセプトブック」を策定し、「国際的な産学連携」「観光・集客」をテーマとしたまちづくりを進めることを定め、公募を通じて機能の誘導を進めてきました。



今後も、大規模土地利用転換を通じて、関内駅周辺地区全体に「国際的な産学連携」「観光・集客」機能が集積し、賑わいにあふれる地区となることを目指し、この地区のまちづくり方針として「関内駅周辺地区エリアコンセプトプラン」を策定します。

なお、「関内駅周辺地区エリアコンセプトプラン」は、地区のまちづくりの動向に合わせて、適宜、更新していくものです。



CONTENTS 目次

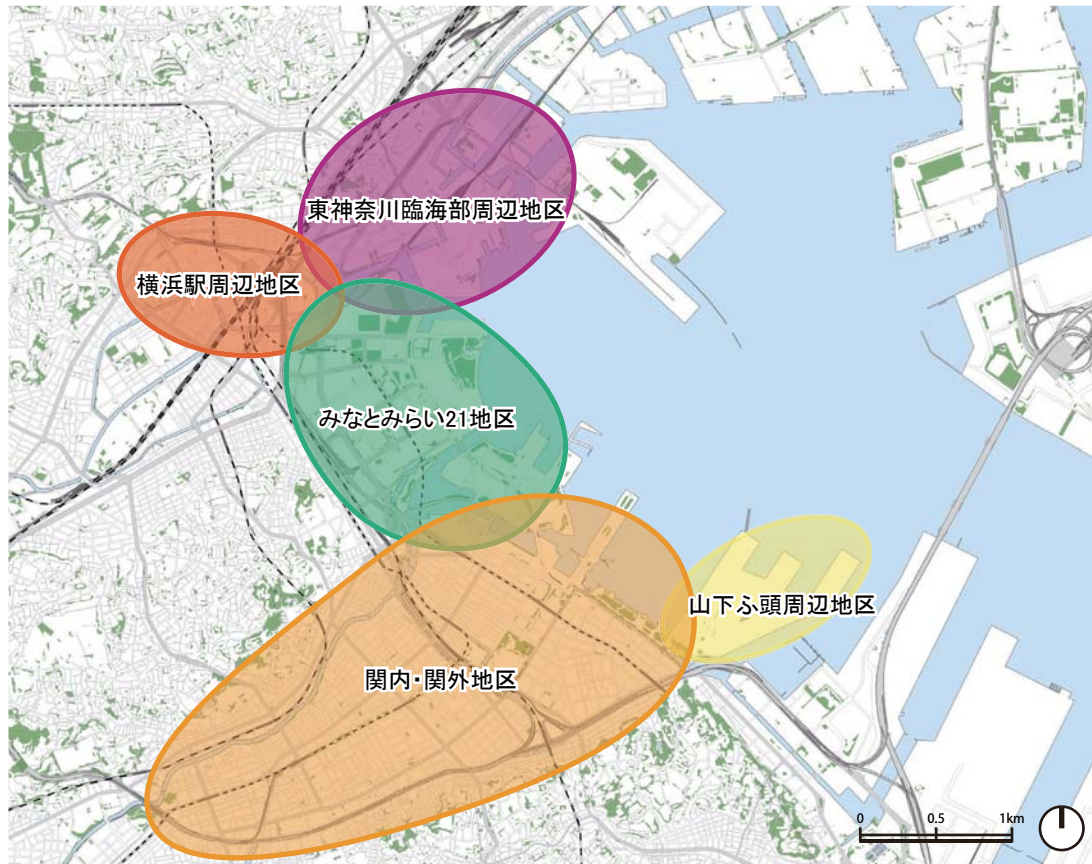
1	関内・関外地区のまちづくり	… 1
2	関内駅周辺地区の新たなまちづくり	… 7
	(1) 関内側エリア	… 10
	(2) 関外側エリア	… 14
	(3) 関内側エリアと関外側エリアの連携強化	… 15
	(4) 関内駅周辺地区のマネジメント	… 16

1 関内・関外地区のまちづくり



1 関内・関外地区のまちづくり

都心臨海部における関内・関外地区の位置付け



横浜市の都心臨海部は、開港を契機に、海外諸国との交易の中心地となり、世界中から集まる人・モノ・カネ・情報・文化であふれ、近代日本の成長をけん引するエリアとして、目覚ましい発展を遂げてきました。中でも、その中心にあった現在の関内地区では、外国人居留地の誕生など、国際性豊かな市街地が形成されるとともに、外国人技術者による近代的な技術の導入等が進められ、時代の先駆けとなるまちづくりが進められてきました。

その後、高度経済成長を迎える一方で、様々な都市問題が発生する中、現在の横浜市の骨格をつくる「六大事業」の一つである「都心部強化事業」により、港湾機能の質的転換が図られ、当時分断されていた関内・関外地区と横浜駅周辺地区の二つの核がみなとみらい21地区でつながり、一体化した新しい都心臨海部が形成されました。

横浜駅周辺地区やみなとみらい21地区では、国際的な企業が立地する業務拠点をはじめ、広域的な商業拠点、国内有数の大規模コンベンション施設など、横浜経済をけん引する都心機能がコンパクトに集積しています。

一方、関内・関外地区においても、古くからの地場産業や、個性豊かな界限など、都市の活動を支える様々な機能が集積しており、近年では特に、港町ならではの個性的で魅力ある資源を活かした文化芸術活動が展開され、都市の新しい価値や魅力が創出されています。

関内・関外地区の歴史と、人々を惹き付けるまち

関内・関外地区は、17世紀の吉田新田の開墾にはじまり、幕末の外国人居留地誕生とともに、それを支える日本人街が形成され、併せて官公庁施設などの立地が進んだことで、横浜の原点として発展を遂げました。その後、諸外国との交易の急速な発展により、貿易に関連する業務機能及び物販店・飲食業などの集積が進み、業務機能や商業機能を中心とした街が形成されてきた歴史があります。



出典：横浜異人商館之図
貞秀図 文久元年
(横浜開港資料館所蔵)



出典：横浜各国商館真図
三代広重画 明治5年
(横浜開港資料館所蔵)



出典：横浜パノラマ〔絵はがき〕
20世紀初頭
(横浜開港資料館所蔵)



出典：山下公園〔絵はがき〕
昭和期
(横浜開港資料館所蔵)

横浜港の開港以来、横浜の中心地として発展を遂げてきた関内地区には、港町ならではの歴史・文化が息づいており、街中には、開港時の面影を色濃く残す歴史的建造物や土木産業遺構などが点在し、横浜の歴史や物語を伝える横浜ならではの風景を構成しています。また、異国情緒あふれる飲食店やバーなどが残り、開港の地ならではの国際的な雰囲気を感じられる街となっています。

これらは、横浜らしさを語り継ぐ貴重な資源として、文化財制度とも連携しながら、まちづくりの中で保存・活用が進められており、現在でも多くの人々に親しまれています。

また、公園や緑地、パブリックスペース等の積極的な整備や、港を意識した街並み景観の形成に取り組んできました。その結果、都心と港・水際線がつながる臨海部の空間・景観は、横浜ブランドを構成する大きな魅力として広く認識されています。また、街中でも、地域の魅力と個性を活かした都市デザインの取組が展開され、美しさ、楽しさが感じられる豊かな都市空間が形成されています。



馬車道



日本大通り



元町



中華街



象の鼻



山下公園

様々な魅力がある関内・関外地区

関内・関外地区には、横浜公園・大通り公園・山下公園などの都市公園や横浜文化体育館・横浜スタジアムといったスポーツ施設、国内外の観光客の玄関口となる客船ターミナル、創造界隈拠点など、港町の歴史と文化に基づいた魅力的な施設が多数あります。さらに、業務機能強化の取組や文化芸術創造都市・横浜を象徴する様々なイベント、スポーツを通じた健康づくりなどの取組を進めています。

これらの街の中にある資源と関内駅周辺地区の機能を結びつけることで、新たな視点で魅力が再発見されるなどの相乗的な効果の創出を誘導していきます。



横浜公園・横浜スタジアム

憩い・くつろぐ緑豊かな空間に加え、スポーツの拠点となる横浜スタジアムにより街の賑わいが生まれている。



大通り公園

緑の軸線として関内駅から関外側へ伸びる長さ1.2kmの公園であり、憩いの場であると同時に地域活性の空間となっている。



横浜マラソン

「する、みる、ささえる」すべての人が楽しめる大会として、スポーツ振興や健康増進に寄与するとともに、経済効果やシティプロモーション効果が期待される。



■ 関内地区における業務機能強化の取組

大企業の本社・研究開発拠点が集積している横浜駅周辺地区やみなとみらい21地区と隣接している関内地区の立地特性を活かし、イノベーション人材が集まる交流の場づくり等の取組を進め、次世代産業を生み出すビジネスエリアとなるために企業の更なる立地を促進します。

また、本社・研究所や観光・MICE施設の立地に関する支援を拡充し、賃貸ビルの建替え等に対する支援制度も新たに創設したほか、民間の共同企業体が運営事業者となり、イノベーション推進のハブとなる「ベンチャー企業成長支援拠点」が開設されています。



関内・関外地区活性化推進計画に基づく業務機能強化のモデル事業 (mass×mass関内フューチャーセンター)

横浜市の企業誘致に関する取組については下記リンク先をご覧ください。
 〈経済局URL〉 <http://www.city.yokohama.lg.jp/keizai/yuchi/>

■ 文化芸術創造都市・横浜

横浜の「港を囲む独自の歴史や文化」を活用し、芸術や文化の持つ「創造性」を活かして、都市の新しい価値や魅力を生み出す創造都市の取組を進めており、市民・NPO・アーティスト・クリエイター等と協働しながら、創造的な活動を発信する「創造界隈拠点」として、臨海部の歴史的建造物・公共空間等を有効活用しています。また、民間主体による空き店舗等のリノベーションが行われています。

横浜市では、横浜駅周辺地区、みなとみらい21地区、関内・関外地区、山下ふ頭周辺地区、東神奈川臨海部周辺地区の5地区を対象とした横浜市都心臨海部再生マスタープラン(平成27年2月)を策定し、これに基づいて各地区のまちづくりを積極的に進めています。例えば、横浜駅周辺地区では、「国際都市の玄関口にふさわしいまちづくり」に向けて、JR駅ビル等の駅周辺の整備が進み、みなとみらい21地区では、観光・MICE機能の強化に向けて、様々な目的に対応する3つのホールの集積が進んでいます。

横浜市都心臨海部再生マスタープランについては下記リンク先をご覧ください。

<都市整備局URL><https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/toshiseibi/sogotyousei/toshinmp/toshinmpsakutei.html>



横浜文化体育館

再整備後は、メインアリーナとサブアリーナ合わせて、年間で100万人規模の動員が予想されるなど、関外地区の新たな集客拠点となる。



横浜大さん橋国際客船ターミナル

国内外の客船が多く発着するほか、都心臨海部における主要観光地の一つであるなど、横浜港の象徴的存在の一つである。



ガーデンネックレス横浜

花と緑にあふれる魅力ある「ガーデンシティ横浜」を推進するリーディングプロジェクトとして、全市的に展開。大岡川の桜、横浜公園・日本大通りのチューリップ、山下公園のバラなど花や緑による魅力・賑わいを創出。



YCCヨコハマ
創造都市センター



象の鼻テラス

Photo: DAICI ANO

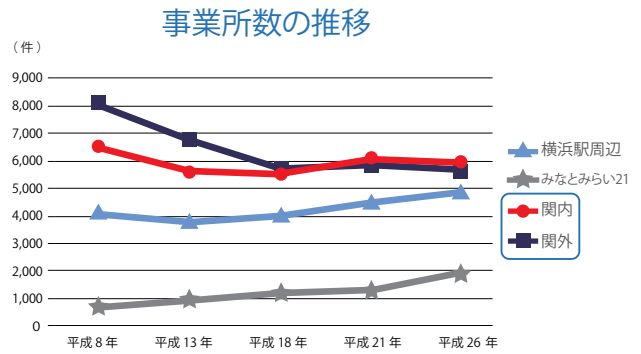
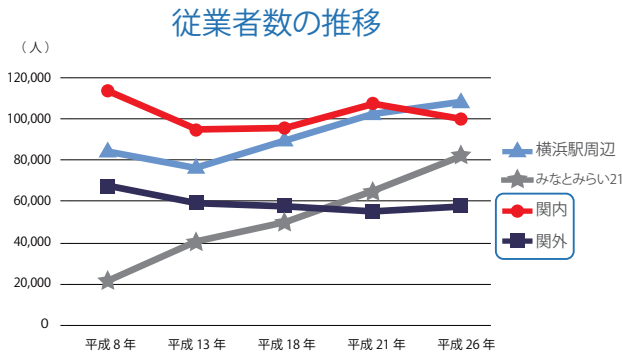
■スポーツ・健康

大規模スポーツイベントの誘致・開催や地元プロスポーツチームとの連携を通じ、市民が一流のプレーを観戦する機会や、夢や感動を共有する機会を創出するとともに、集客促進や地域経済活性化を目指します。

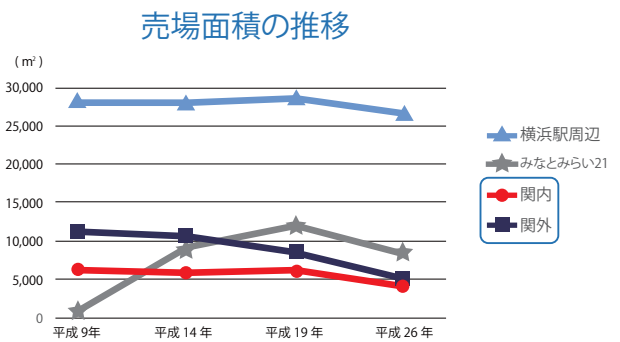
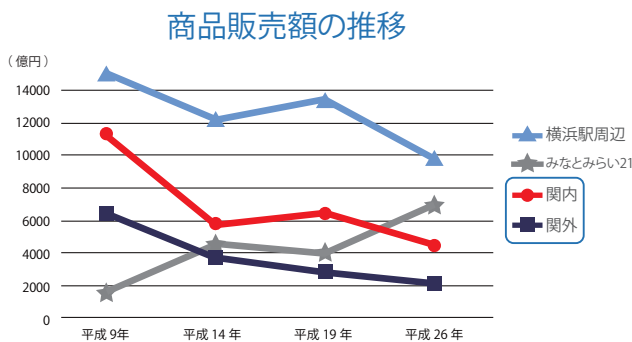
また、誰もが身近な場所でスポーツに親しめる環境づくりを推進し、スポーツや健康を通じた市民の暮らしの充実や街の活性化を図り、スポーツ都市横浜の実現を目指します。

関内・関外地区の現状

関内・関外地区は、横浜市内で最大の従業者数が働くエリアであり、横浜市全体の経済・雇用をけん引する役割を担っています。



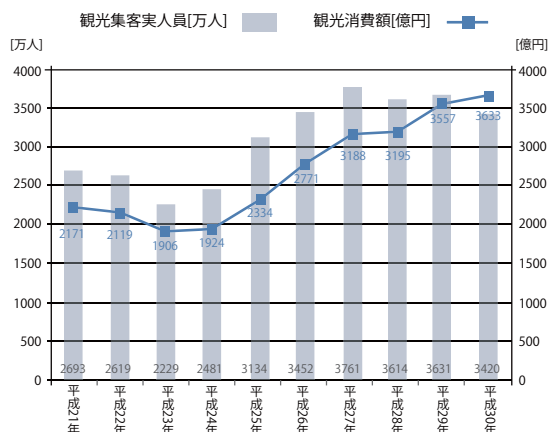
しかし、近年は横浜駅周辺地区やみなとみらい21地区の開発が進み、都市構造や社会・経済情勢が変化したことによって、関内・関外地区の商業機能の低下などが課題となっています。



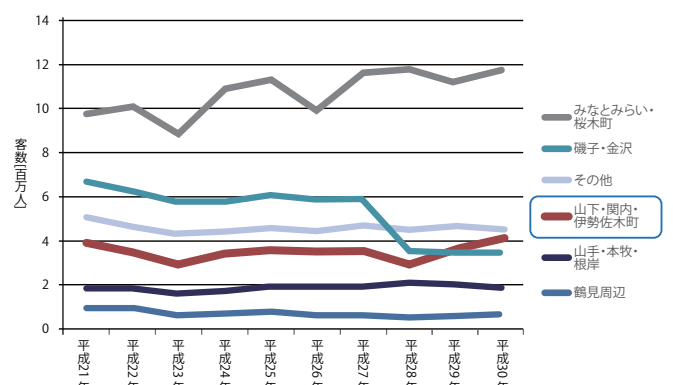
一方で、横浜市の観光集客実人員、観光消費額は上昇傾向となっており、横浜市主要ホテルの客室稼働率は88% (平成30年) の高稼働となっているほか、市内の外国人延べ宿泊者数も年間74万人 (平成30年) となり、過去最高となっています。

しかし、横浜市を訪れる観光客は、みなとみらい21地区や、横浜赤レンガ倉庫などの臨海部を回遊しており、観光客の目的地となる施設が少ない関内駅周辺地区を回遊する人の流れができていないのが現状です。

横浜市の観光集客実人員と観光消費額の推移



観光入込客数(観光施設)の推移



2 関内駅周辺地区の新たなまちづくり



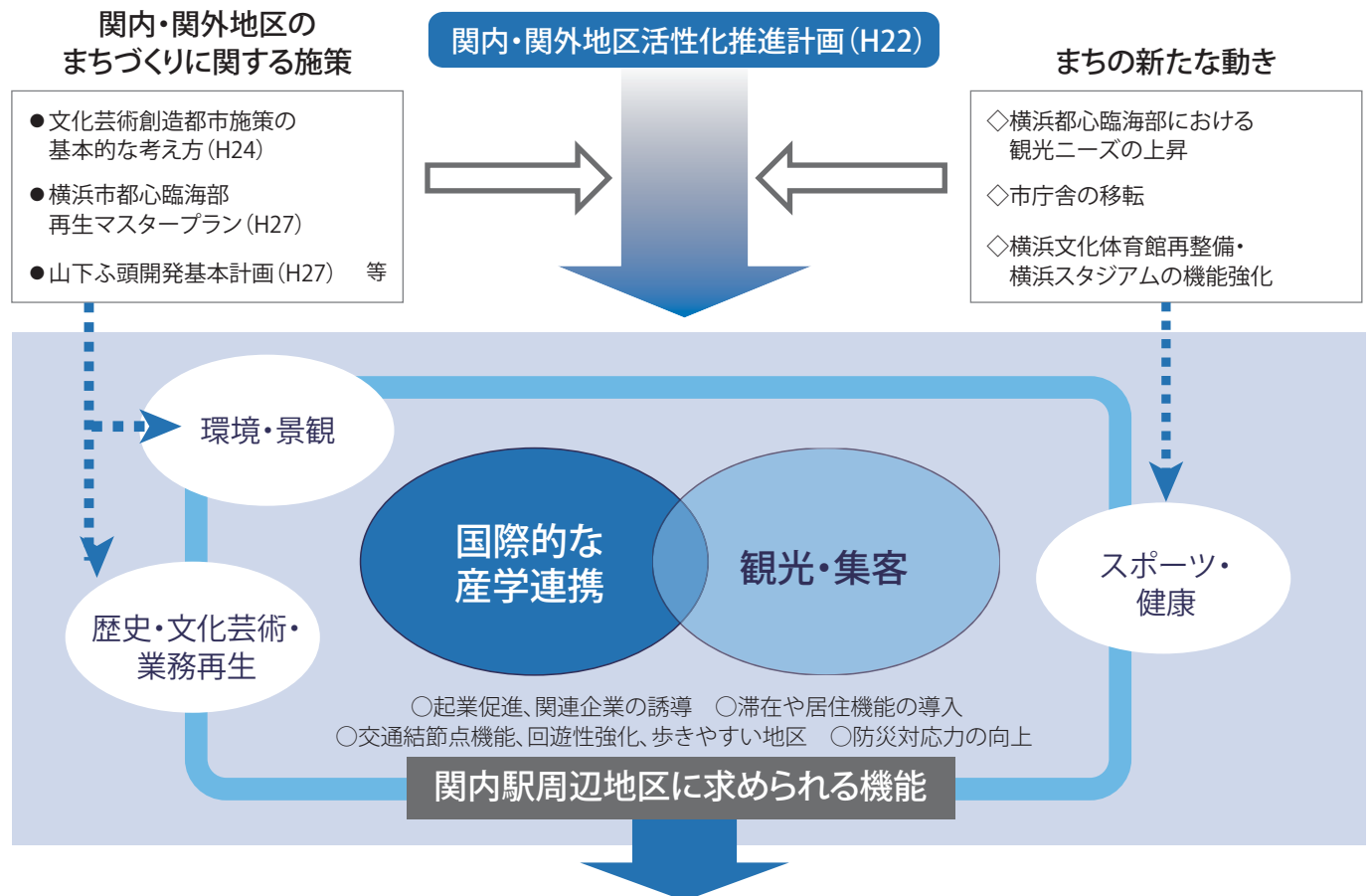
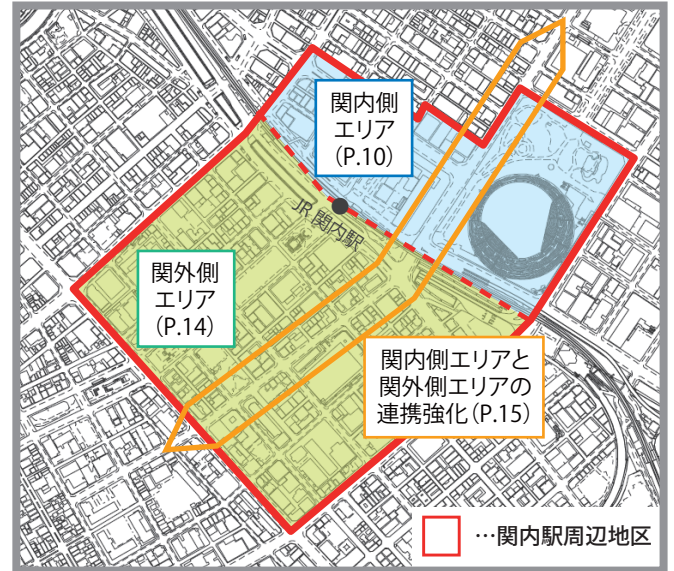
2 関内駅周辺地区の新たなまちづくり

関内駅周辺地区

関内駅周辺地区は、J R 関内駅を中心とした一体のエリアを指します。開港以来、横浜の発展をけん引してきた関内・関外地区の中心であり、長年にわたり市民に親しまれてきた横浜の顔ともいべき地区です。

関内・関外地区の結節点でもあるこの地区で、連鎖的に行われる大規模土地利用転換を通じて、知と創造の活動の場を呼び込みます。地区内に新たな風を吹き込み、人が集まる魅力を高めることで、関内・関外地区の再生及び都心臨海部の活性化につなげていくため、「**国際的な産学連携**」「**観光・集客**」をテーマとし、業務・商業・居住・交流などの多様かつ魅力的な機能が近接したまちづくりを推進します。

あわせて、来街者や住民が安心して楽しく歩ける「歩きやすい地区」となることを目指し、通り沿いに連続した賑わいの創出や歩行者目線の景観形成、駐車場設置の地区ルール、自動車流入の抑制などを進めます。



関内駅周辺地区を核とした関内・関外地区の活性化

国際的な産学連携

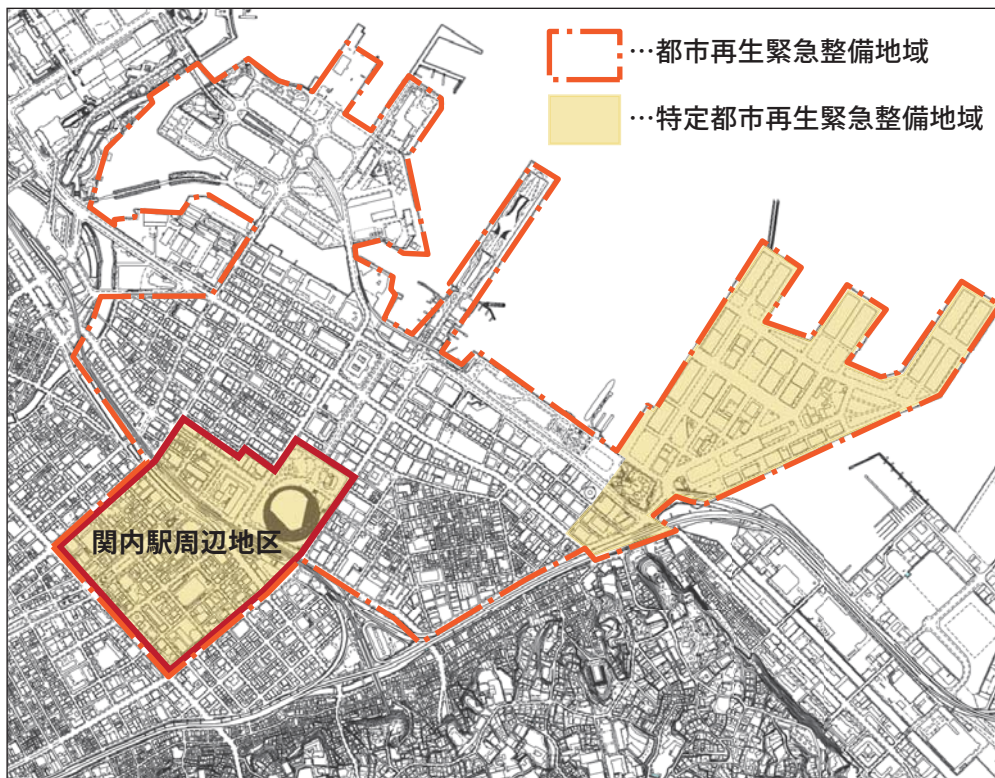
先端技術や文化芸術、スポーツ、健康医療、国際、観光など、横浜市の施策や関内・関外地区のまちづくりと関連する分野、今後成長が期待できる分野について、国内外に発信力のある研究機能や人材を呼び込むことで、関連産業の集積や新たな産業・サービス・人材を創出し、関内・関外地区の業務機能再生をけん引していきます。

観光・集客

観光客の目的地となる新たな魅力を誘導することで、都心臨海部における新たな集客の拠点を作り出すとともに、高まる都心臨海部の観光ニーズを関内駅周辺に引き込み、周辺と結ぶことで、関内・関外地区の回遊性を高め、商業需要の向上につなげていきます。

平成30年10月、関内地区は、都市再生を進めるべき地区として、国から、都市再生特別措置法に基づく「都市再生緊急整備地域」の指定を受けましたが、その中で、関内駅周辺地区は、都市の国際競争力の強化を図るうえで特に有効な地域として、世界に直結し成長する都市を目指す「特定都市再生緊急整備地域」に指定されました。

横浜市では、これらの指定を受けて、民間都市開発投資を呼び込みながら、関内・関外地区が目指すまちづくりを力強く進めます。



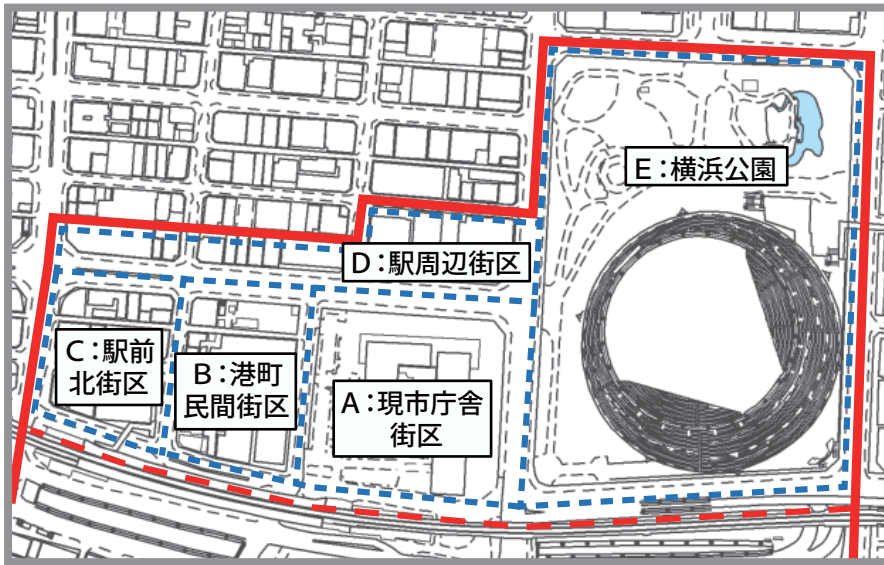
平成30年10月に拡大された区域

都市再生緊急整備地域及び特定都市再生緊急整備地域内では、都市計画等の特例や金融支援や税制措置を受けるための認定等の特別な措置を受けることができます。

※都市再生関連施策については下記リンク先をご覧ください。

〈国土交通省URL〉 http://www.mlit.go.jp/toshi/crd_machi_tk_000008.html

(1) 関内側エリア



現市庁舎街区や港町民間街区等、連鎖的に大規模な土地利用転換が見込まれる関内側エリアにおいては、現行の基準の見直しも視野に入れ、地区計画等の都市計画手法等を活用した適正な誘導を通じて、関内・関外地区の活性化の核となるような新たなまちづくりを行います。

また、景観誘導や基盤整備を通じて、関内・関外地区の新たなまちを印象付けるシンボルとなる景観を形成し、都市再生へつながる業務・商業・居住・交流などの多様かつ魅力的な機能が近接したまちづくりを推進します。

1 機能の誘導 ～「国際的な産学連携」「観光・集客」の強化～

関内側エリアは、来街者・観光客・住民・地元団体などが利用するJR関内駅と市営地下鉄関内駅があり、様々な賑わいと交流が生まれる結節点となることが期待されるエリアです。

そこに、「国際的な産学連携」「観光・集客」の機能やそれと連携した機能を、現市庁舎街区が先駆けとなって連鎖的に誘導することで、活性化の核を形成します。また、その効果を関内・関外地区全体の魅力向上へと波及させていきます。

なお、住宅については、現在、立地が禁止されていますが、市庁舎移転後の新たなまちづくりの一環として、都市活力の維持・向上を図るとともに、業務・商業・居住・交流などの多様かつ魅力的な機能が近接したまちづくりを推進するため、現行基準の見直しも視野に入れ、都心にふさわしい居住機能の導入を検討します。

具体的には、エリア内を区分したうえで、機能の誘導を目指します。

A: 現市庁舎街区

関内・関外地区では希少な大規模街区であることを活かし、地区全体や都心臨海部へとインパクト・波及を与える規模の大きな開発によって、「国際的な産学連携」「観光・集客」の中心的機能の積極的な誘導を目指す街区です。

B: 港町民間街区 C: 駅前北街区

低層部の賑わいの連続性を保ちながら、関内駅前という立地を踏まえ、市街地再開発事業等の集約化を通じて結節点機能の強化を図ります。「国際的な産学連携」「観光・集客」機能を誘導することにあわせて、「商住共存地区(※)」と同様に、業務・商業機能と居住機能が適切に共存したまちづくりを目指す街区です。

D: 駅周辺街区

低層部の賑わいの連続性を保ちながら、「国際的な産学連携」「観光・集客」に寄与する開発の誘導を行うとともに、隣接する「商住共存地区(※)」と同様に、業務・商業機能と居住機能が適切に共存したまちづくりを目指す街区です。

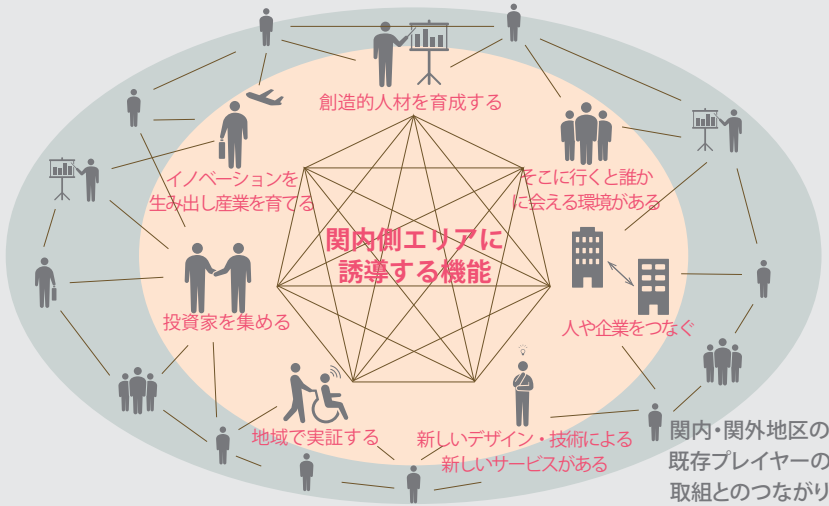
E: 横浜公園

明治9年開園の歴史ある公園であり、外国人と日本人双方が利用できたことから「彼我(ひが)公園」と呼ばれていました。緑豊かな公園は市民が憩い・くつろぐ場として貴重なことに加え、横浜スタジアムはプロスポーツや市民スポーツの拠点となっています。歴史と緑を尊重し、周辺環境とも協調しながら、街の賑わい創出につながるよう、公園の魅力を高めます。

※商住共存地区…関内側エリアを除いた関内地区において、都市計画により指定されている地区。
住宅の容積率を制限しているが、業務・商業機能等の併設によって緩和が認められる。

■「国際的な産学連携」機能：持続的な創造的活動と経済活動を生み出す拠点となる

人材と企業の交流・育成により、このエリアに新たな風を吹き込み、研究者・起業を志す人・アーティストなどの多様な人材が集まって持続的に創造的な活動が生まれる場所となります。



関内・関外地区に持続的な創造的活動が生まれる

■ 新産業創出拠点(A街区)



※検討イメージ

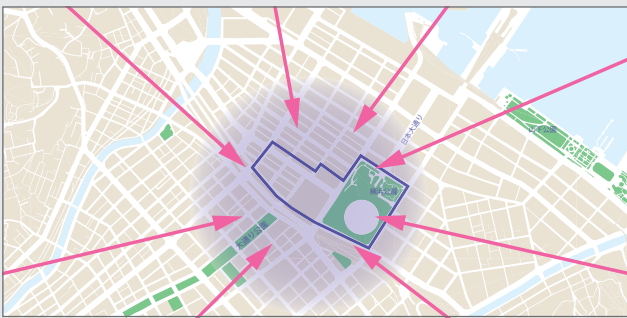
横浜最大級のビジネスイノベーション拠点として、産・学の連携による特色ある領域の支援プログラム展開や、多様な人が集まる場づくりなどを実施

■ ベンチャー企業成長支援拠点(D街区)

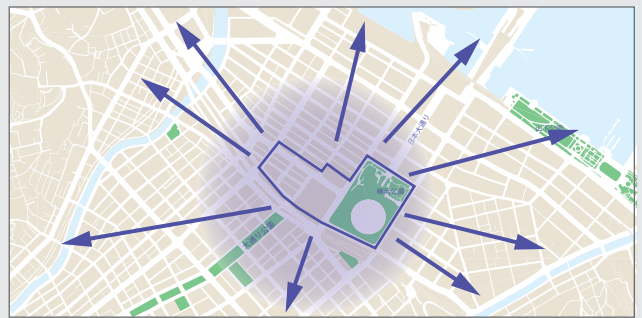


横浜市ベンチャー企業成長支援事業の拠点として、異分野との接点・情報発信・トライアルがしやすい環境・相談しあえるコミュニティなどを構築

■「観光・集客」機能：国内外から多くの人を集め、周辺地区との回遊を生み出す拠点となる



ここにしかない体験や、横浜の文化を感じる機会など、国内外の多くの人を集める魅力を創り出し、関内・関外地区を訪れる来街者の新たな目的地となります。



地域の資源へと誘うプラットフォームとなることにより、周辺エリアの様々な文化と結び付き、新しい価値や感動を生み出す観光が創造されます。

■ スポーツ・文化発信拠点(A街区)



※検討イメージ

スポーツを中心としたコンテンツや、周辺地区の音楽施設との連携により、365日多様なエンターテインメントを配信し、横浜スタジアムでのイベントが無い日も含め、関内の集客力を強化

■ 地域とつながる横浜探訪の拠点(A街区)



※検討イメージ

地元との交流や文化探訪への関心が高い若者層へ、地域資源を発掘した特別な旅体験を提供。地元との交流を通じて地区のファンやリピーターを醸成し、関内・関外地区の観光回遊を促進

2 景観の誘導 ～関内地区の玄関口として、魅力と品格のある景観形成～

関内側エリアは関内地区の玄関口であり、景観面でも、市庁舎が移転した後の関内地区の印象を形作る重要なエリアです。

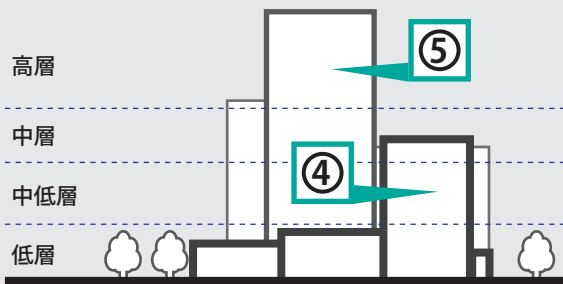
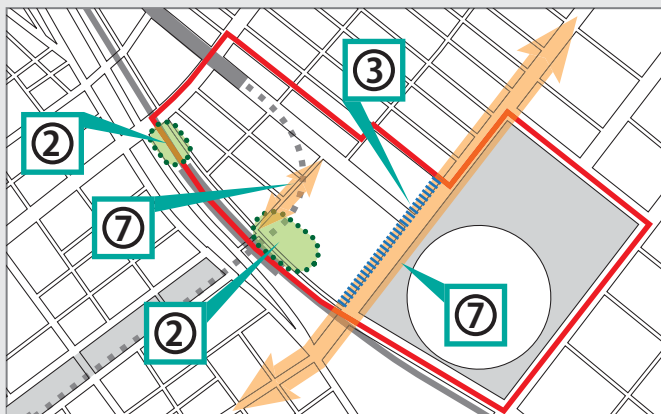
これまで横浜市では、現市庁舎街区の周辺を横浜市景観計画において、「市庁舎前面特定地区」等に位置付け、調和した街並みとゆとりある空間となるよう景観形成に取り組んできましたが、新たなまちづくりを進めるにあたっては、

- 関内地区の玄関口としての風格のある景観と、多くの人で賑わう魅力的な駅前空間の形成
- 大通り公園から横浜公園、さらに海沿いへとつながる緑の軸線沿いの魅力ある歩行者空間の形成
- 「開港の地」としての歴史性

を普遍的な景観形成上の要素として継承しつつ、これまで形成してきた景観がより良いものとなるよう誘導していきます。

また、土地利用転換を行う際には、関内・関外地区の新たなシンボルとなるような景観形成を目指し、建築物の低層部には、人々の活動による賑わいのある景観を誘導するとともに、最高高さ等高層部の景観についても、現行基準の見直しも含めて、地区の象徴となるような魅力と品格のある眺望景観を誘導します。

■ 関内側エリアの景観形成の考え方



- ①建築物は、周囲の街並みと調和のとれた魅力的な形態意匠・色彩を誘導。
- ②建築物の「駅前広場」に面する部分は、関内地区の玄関口として風格や、活気と賑わいのある景観を創出する形態意匠を誘導し、特に、現市庁舎街区の駅前広場に面する部分では、旧市庁舎と調和のとれた形態意匠・色彩を誘導。
- ③建築物の低層部でみなと大通りに面する部分は、開放的なしつらえとし、賑わいを創出する形態意匠を誘導。
- ④建築物の中低層部は、関内地区の歴史ある街並みを表現し、関内地区の玄関口として魅力的な形態意匠を誘導。
- ⑤建築物の中層部・高層部は、歩行者の視点からの圧迫感の軽減に配慮した形態意匠を誘導。
- ⑥工作物は、周囲の街並みと調和のとれた形態意匠・色彩とし、特に、現市庁舎街区の駅前広場に面する部分では、旧市庁舎と調和のとれた形態意匠・色彩を誘導。
- ⑦将来のまちづくりを見据えた、歩行者ネットワーク街路の強化。

■ 新旧が調和して共存する関内・関外の新たなシンボル（A街区）

A街区では新産業創造拠点・イノベーションオフィス・体験型観光サービス機能などの多様な機能を集約した複合施設が計画されています。

- ・新たな事業活動やプレイヤーを呼び込み、関内・関外地区の賑わいの象徴となる超高層タワー棟
- ・関内の玄関口にふさわしい駅前広場の創出
- ・開港百周年事業の一環として昭和34年に竣工した市庁舎（行政棟）の保存活用

等により、新旧が混ざり合う関内・関外地区らしい特色を持った新たなシンボルとして、人々の印象に残る風格ある景観を形成します。



3 「観光・集客」に資する交通機能の導入 ～人が集まり、周辺と結ばれる拠点をつくる～

現市庁舎街区・教育文化センター跡地活用や、横浜文化体育館・横浜スタジアムといった大規模スポーツ施設の再整備等による来街者の増加を見据え、「観光・集客」に資する交通機能の導入(交通広場については、港町民間街区の再開発及び基盤整備と合わせて整備予定)・駅前の広場空間の創出・安全で快適な歩行者空間の整備などを行います。

これらの整備を行うことで、市内外とのアクセス向上や関内・関外地区の接続強化を図るとともに、臨海部との円滑な人の流れを誘導します。



■ 拠点とつながり回遊性を高める交通機能

観光案内拠点・高速バス発着場・モビリティステーションが交通結節拠点となり、既存交通を補完し新たな客層を呼込む一次交通や街の周遊をサポートする多様な二次交通を提供

新たな客層を呼び込む
一次交通

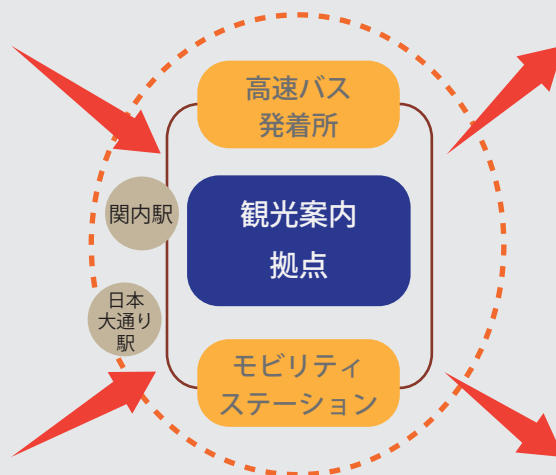
交通と来訪者をつなぐ
交通結節拠点

まちの回遊をサポート
二次交通

空港とのアクセス



全国・首都圏有名
観光地とのアクセス



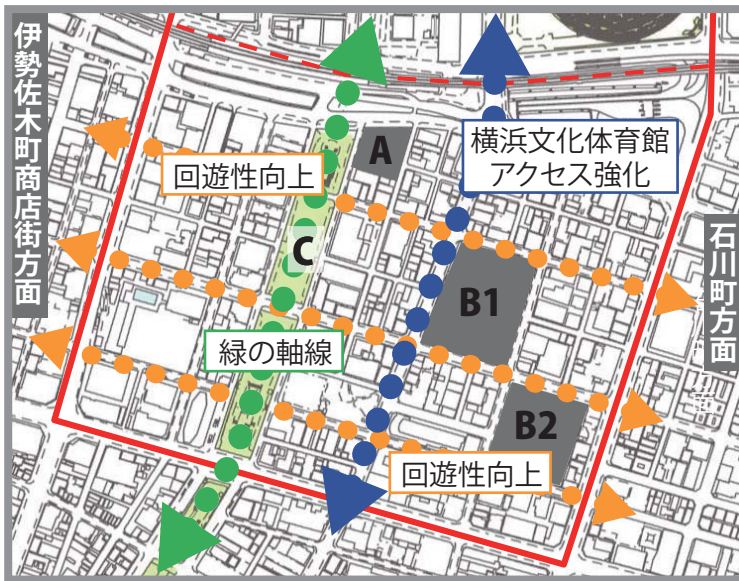
エンターテインメント性の高い
観光バス周遊ツアー



街歩きをサポートする
グリーンスローモビリティ



(2) 関外側エリア



関外側エリアにおいては、関内側エリアのまちづくりの動きとともに、教育文化センター跡地活用や横浜文化体育館の再整備を契機として、「国際的な産学連携」や「観光・集客」とスポーツ・健康が連携したまちづくりを行います。

教育文化センター跡地活用では、関東学院大学のキャンパスに約3,300人の学生が通うことになり、その学生達が大通り公園を活用することで、日中の賑わいが形成されます。また、学生達のフィールドワークの舞台として関外地区を活用することで、街へ学生が出ていくことになり、伊勢佐木町をはじめとする既存商店街の活性化につながる事が想定されます。

横浜文化体育館の再整備においては、年間を通じてスポーツだけではなく、コンサート等のイベントも開催される予定であり、多くの集客が見込まれます。大通り公園の活用や既存商店街と連携することで来街者を街全体で受けとめ、回遊性を高めます。

緑の軸線(上図緑色矢印)を形成する大通り公園に加え、みなと大通りから横浜文化体育館への歩行者動線(上図青色矢印)についても、臨海部とのアクセスを強化します。関外地区の回遊性、賑わいの形成のためには伊勢佐木町商店街や石川町方面の軸線(上図オレンジ色矢印)も重要であり、教育文化センター跡地活用、横浜文化体育館の再整備にあわせ、伊勢佐木町など既存商店街との連携を強化し、回遊性を高めます。

A 関東学院大学 新キャンパス

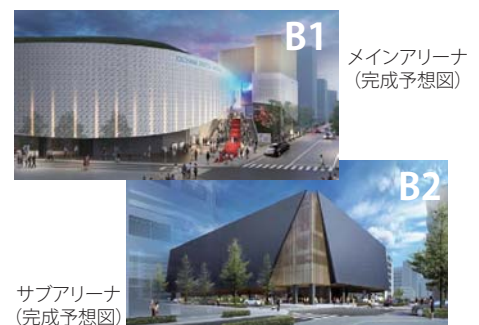
関東学院大学が、約2,600㎡の土地に約3,300人の学生規模をもつキャンパスを設置します。ホール等の一部施設を市民に開放し、カンファレンス・講演会・演奏会などを開催することにより、地域への賑わい創出に貢献します。

マッチングオフィスを併設したコワーキングスペースを設置し、市民が大学のリソースにワンストップで接続することで、様々なイノベーションを誘発します。



B 横浜文化体育館の再整備

約5,000席のメインアリーナでは、年間を通じてスポーツだけではなく、コンサート等のイベントも開催される予定です。最大3,000席となるサブアリーナでは、現在の横浜文化体育館の機能に武道館が併設され、スポーツだけではなく武道の拠点として整備されます。また、サブアリーナには総合案内所が設けられ、施設の利用に関する問合せに留まらず、周辺の街の情報発信拠点となります。



C 大通り公園

延長1.2キロメートルの緑の軸線をなす緑のオープンスペースであり、市民が憩いやすくなる公園です。石の広場では地元等のイベントのほか社会実験が実施されています。関東学院大学新キャンパスや横浜文化体育館の再整備などに関わる新たなプレーヤーによる活用等により、周辺環境とも協調しながら、街の賑わい創出につながるよう公園の魅力を高めます。



(3) 関内側エリアと関外側エリアの連携強化

1 JR関内駅南口改良

横浜市とJR東日本で協力して、関内駅南口改良等の調査を進めています。

2 みなと大通りシンボルロード化及び横浜文化体育館アクセス強化

関内側エリア及び関外側エリアともに、「国際的な産学連携」「観光・集客」の実現に向けた大規模施設の立地が続き、来街者の増加による、地区の更なる賑わい創出が期待されます。

こうした大規模施設が面する「みなと大通り」及び「横浜文化体育館へのアクセス動線」は、連続する1つの路線であり、各施設間の回遊性を向上させるとともに、大通り公園や日本大通りをつなぐ緑の軸線などとあわせて、関内側エリアと関外側エリアとの一体性を向上させる重要な動線です。

一方、現状は車道が広く路上駐車が目立つとともに、既設の自転車歩行者道は狭く、また将来の来街者の増大も見据えると、交差点部においては歩行者溜まりも十分とはいえない状況です。

このため、車道幅を狭めて歩行者・自転車通行空間を拡充する等、沿道利用状況を踏まえながら既存道路空間の再整備を行い、安全で快適な歩行者ネットワークの強化・拡充を図っていきます。また、通りに面して店舗を誘導する等、沿道の連続的な賑わいの創出を図っていきます。

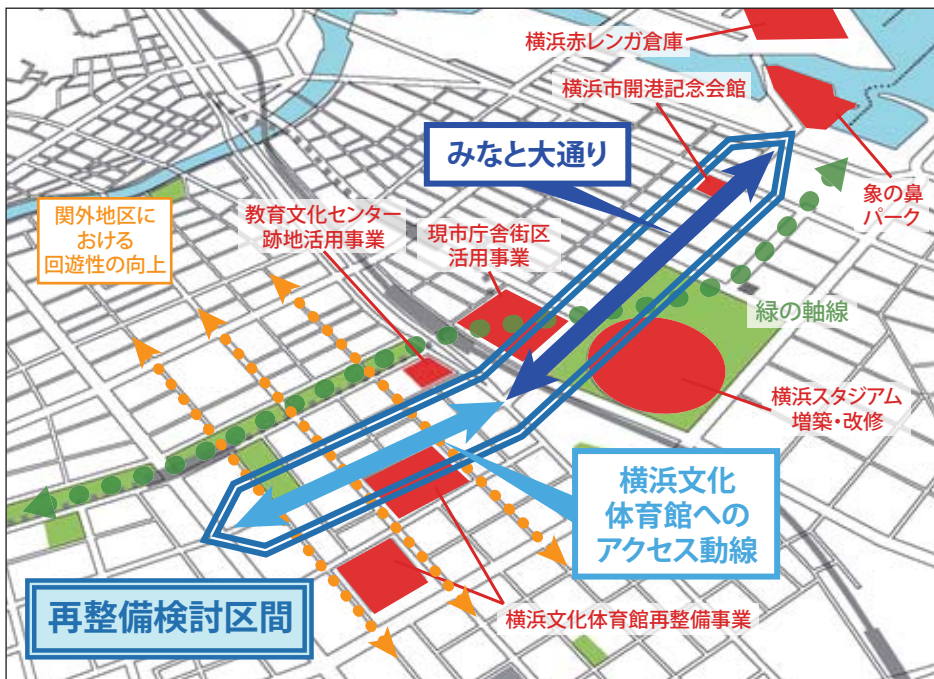


写真1：みなと大通りの現状



写真2：横浜文化体育館沿道の現状

みなと大通りの歴史

嘉永6年(1853年)のペリー来航以降、江戸幕府が開港の場所として、横浜村(現関内地区)を定め、都市が形成されてきました。この時、現横浜公園の位置に港崎廊(遊郭)が作られ、港から遊郭を繋ぐ道として、みなと大通りの原型となる遊郭通りができました。

みなと大通りは、開港と同時期から原型が見られ、明治初期には現在とほぼ同形状となった、横浜の発展とともに歩んできた道路です。



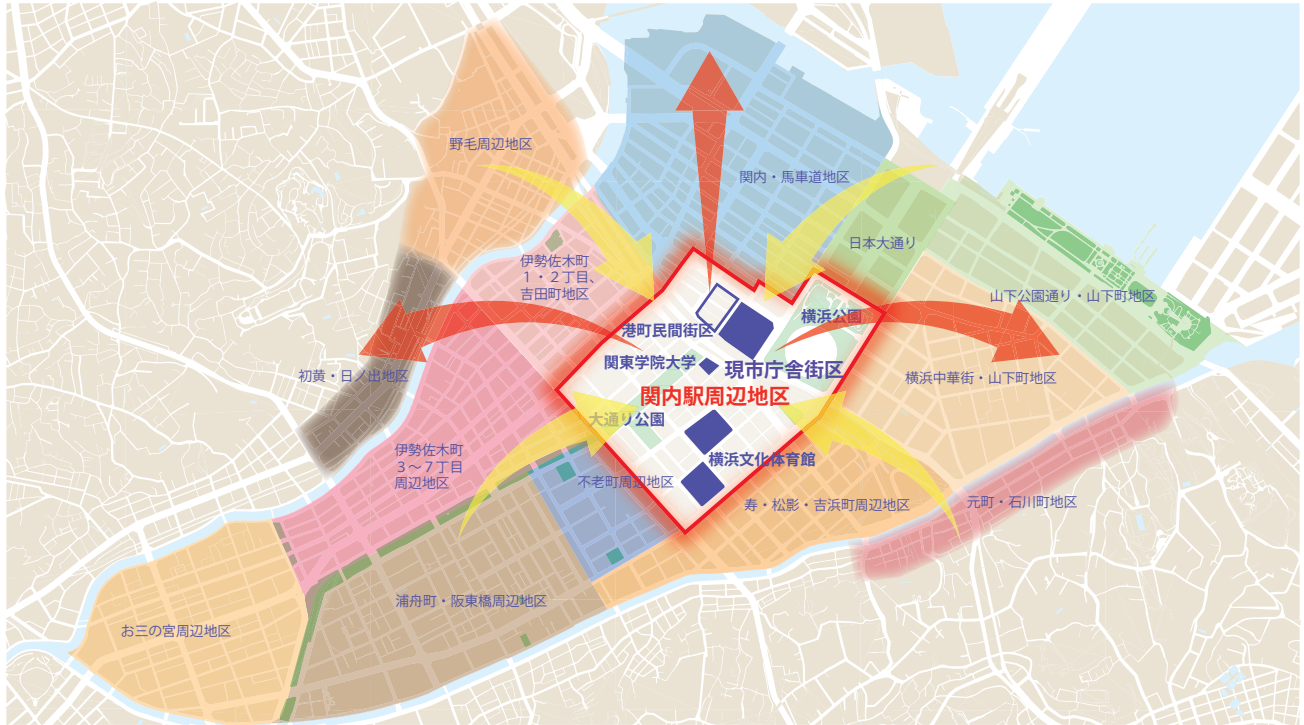
開港当時の港崎町遊郭(右)と遊郭通り(現みなと大通り)
出典：神奈川横浜華郭之光景 万延元年
(横浜開港資料館所蔵)



開港当時の関内

(4) 関内駅周辺地区のマネジメント

関内駅周辺地区では、現市庁舎街区活用事業、港町民間街区、教育文化センター跡地活用事業、横浜文化体育館再整備事業など、地区の大きな変化のきっかけとなる複数の事業が計画されています。これらの事業に関わる新たなプレイヤーと、すでに地域で活動している団体などがエリアマネジメントを通じて連携し、関内駅周辺地区の新たなまちのブランドを形成していきます。また、将来的には関内・関外地区内の他地区とも連携し、関内・関外地区全体を活性化させることが期待されています。



関内駅周辺地区のマネジメントと、関内・関外地区内の他地区と連携した活性化イメージ

関内駅周辺地区

まちの魅力づくり

「まちの情報発信」「各敷地が連携したイベントの実施」「公園等の公共空間を活用した賑わいづくり」「災害時の共助の取組（高齢者・乳幼児等を含む帰宅困難者の受入れ等）」「駐車場マネジメントなど、歩行者優先のまちづくり」などの取組を持続的に行うことで、まちの価値が高まっていきます。

コミュニティづくり

関内駅周辺地区に愛着を持つプレイヤーを新たに育て、地域に根ざした組織体制を構築することが重要です。

関内・関外地区内の他地区との連携

様々な特徴を持つ地区が集まっていることが、関内・関外地区の大きな魅力です。今までも積極的にエリアマネジメント活動を展開してきた各地区が連携して、相乗効果を発揮することにより、関内・関外地区の多様性が他地区にない強みとなり、地区全体のブランドが向上します。

関内駅周辺地区駐車場整備ルール

横浜市では、関内駅周辺地区を「歩きやすい地区」とすることを旨とし、関内駅周辺地区の駐車場整備に関するルールを定めています。

なお、本ルールは、関内駅周辺地区における交通環境や駐車場の利用状況の変化、エリアマネジメント組織の発足等、周辺状況の変化に応じて、適宜更新するものとしています。

詳しくは次のURLからご覧ください。

<関内駅周辺地区駐車場整備ルール> <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/toshiseibi/toshin/genshichoshagaikoutou/chusyajyo.html>



【関内駅周辺地区 AREA CONCEPT PLAN】

令和2年1月発行

発行・編集：横浜市都市整備局都心再生課

住所：横浜市中区港町1丁目1番地

電話/FAX：045-671-3962 / 045-664-3551

ホームページ：<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/toshiseibi/toshin/genshichoshagaikutou/kannaiekisyuhen.html>